

横浜市立緑小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

| 共通取組 重点取組 | 平成25年度 | | |
|--------------------|---|--|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ・授業の中に言語活動を必ず位置付け、自分の考えを表現、交流できる授業を行います。 | ・言語活動を取り入れた授業展開に努めた。各教科毎に最適な言語活動の在り方を追究し、表現力・コミュニケーション力を一層向上させ、豊かな「学び合い」を実現していく。 | A ⓐ C D |
| 2 豊かな 心 | ・オープンスクールの時に道徳の授業を公開し、懇談会で道徳教育について共通理解を図ります。 ・なかよしタイムなどで「異年齢集団活動」を自主的、意欲的に行うことができるようになります。 | ・道徳授業の公開はあったが、懇談会での共通理解を深めるまでには至らなかった。 ・行事や授業で、他学年や他クラスの関わりを多くもつことができた。連帯感をもち、協力して取り組む姿が見られた。さらに自主性、自立心を育てていく。 | A ⓐ C D |
| 3 健やかな 体 | ・体育科では、ゲーム・ボール運動領域を重点領域とし、一人ひとりの技術向上を目指しています。 ・学校保健委員会では、体力アップに取り組み、主体的に体づくりができるようにします。 ・各学年の特別活動の時間に食に関する指導を行います。 | ・体育科では、子どもたちの技能を高めるための教材や指導法、カリキュラムについて工夫ができた。 ・休み時間に行う「ぐる縄タイム」や「体力アップ週間」などで体力向上することができた。 ・緑小の特色を生かした食の教材化で教育課程に内在する食の学びを深められた。 | A B C D |
| 4 教育課程・学習 指導 | ・算数の基礎基本の確実な定着を図るために少人数指導・習熟度別指導を行っています。 ・読解力向上に向け、朝読書・読み聞かせの継続・言葉を大切に学習指導を展開しています。 | ・活動内容の系統性を考慮して立案した宿泊体験学習を実施し、体験的・問題解決的な学習活動の充実を図った。 ・算数少人数指導や習熟度別指導、継続的な漢字練習・計算練習を行い、基礎基本を定着させた。 ・継続的な読書指導・読み聞かせにより読書をする習慣が身につく、読解力がついてきた。 | A B C D |
| 5 児童生徒 指導 | ・学校のきまりや生活目標の徹底、マナーアップ運動推進を通じて子どもたちの規範意識を高め、自主的に判断して実践していく子どもたちを育てます。 ・子どもが安心して安全で豊かな生活を送れるよう児童指導上の問題点について全職員で定期的に振り返り、共通理解の基、意図的・計画的・組織的に指導を積み重ねています。 | ・教師自ら範を示し、職員間で共通理解をしながらの育成に努めた。来年度も「言葉遣い」「あいさつ」「登下校のマナー」については、引き続き指導をする。 ・毎月の職員会議で問題点を共有化し、一貫性のある指導を行うことができた。 | A ⓐ C D |
| 6 特別支援 教育 | ・特別支援教育に関する研修を全職員で行っています。 ・保護者、他機関とも連携し、個別の支援計画を立て、計画的に支援を行っています。 | ・特別支援委員会を中心として、学習障害、自閉症の研修を実施し、児童の特性のとりえ方や具体的な指導法について理解を深めた。 ・支援計画を基に、児童や保護者のニーズに合った支援を行うことができた。 | A ⓐ C D |
| 人材育成 組織運営 | ・課題・ニーズに応じた職員研修の充実を図っています。 ・経験年数の少ない教員による自主的な指導力向上研修(メンター研修)を設定し、若い人材の資質能力の向上を図っています。 ・キャリアステージに応じて必要とされる資質・能力を高めるための研修をOJTにより実施する。 | ・研修担当を設け、ニーズに応じた計画的に研修を設定し、危機管理、児童対応等について研鑽を深めた。 ・10年次以下の教員を中心として授業研などをコーディネートし、若手教員の授業力や指導力の向上に取り組んだ。来年度も熟練者の知恵の継承に取り組んでいく。 | A B ⓐ D |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 小中一貫 教育推進 ブロック 内相互評価 結果 | ・小中学校合同保健委員会に食に関する学びの交流をすることにより、家庭での食への意識が高められているので、引き続き継続していきたい。 ・体力アップについても、合同で話し合い、それぞれ学校独自の体力作りができた。 ・数学は、中学でもよくできている。基礎基本がしっかり身に付いている。引き続き取り組んでほしい。 |
|-------------------------------------|--|

| | |
|---------------|---|
| 学校関係者 評価結果 | ・学校の教育活動の広報や保護者への連絡などは、もう少し見やすい工夫をしてほしい。 ・自己評価では、成果と課題をより明確に把握しておきたい。何%まで達成など数値化すると分かりやすい。 ・防犯パトロールの時には、あいさつができる子が多い。知っている子どもたちはあいさつを返すが知らない子どもたちはあいさつをしない。学校だけでなく、地域全体で子どもの健全育成を図る必要がある。 |
|---------------|---|

| | |
|-----------------------|---|
| 評価結果に 対する 学校の見解 | ・小中ブロックの交流をより深めていくために有意義な活動を増やしていく。 ・本校の学校経営方針や実際の教育活動をより分かりやすく発信していく。 |
|-----------------------|---|

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | ・行事や授業で連帯感をもち、協力して取り組む姿が見られたが、自主性、自立心はさらに育てる必要がある。 ・算数少人数指導や読解力向上に向けての活動により基礎基本は身につけてきたが、表現力育成の面での成果はまだあまり見えていない。 ・地域との交流として、ぼらんていあ倶楽部を通して、様々な教育活動で交流・連携を深めてきた。小中交流では、まだ9年間を通しての学習指導や生活指導の円滑な接続には至っていない。 |
|----------------------|--|

| 共通取組 重点取組 | 平成26年度 | | |
|--------------------|--|--|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ・授業の中に言語活動を必ず位置づけ、自分の考えを表現、交流できる授業を行い、市学習調査の標準化得点が2ポイント向上しています。 ・勉強が好き、やりとげたと思う児童を増やすために、各自の興味・関心を引き出すための学習展開を工夫します。 | ・各教科の中で、自分の考えを表現したり相手の話を聞いて考えをまとめたりする学習ができた。重点研究では、学級会を通して互いの思いや考えを認め合い生かしながら合意形成をしていく表現力の育成に努めた。 ・授業の始めには課題を提示し、授業の終わりにまとめを行い、分かりやすい学習展開に努めた。 | A ⓐ C D |
| 2 豊かな 心 | ・オープンスクールの時に道徳の授業を公開し、懇談会で道徳教育について共通理解を図ります。 ・各学級で問題になった事案を道徳の時間で取り上げ、自分ごととして考えられる子どもを育てます。 ・係活動や当番活動に自主的に取り組むことで、自分のよさを実感したり友だちのよさを認めたりできる子どもを育てます。 | ・道徳授業の公開はあったが、懇談会での共通理解を深めるまでには至らなかった。全職員で道徳教育の研修を行い懇談会での話題づくりを徹底し実行する。 ・なかよしタイムや異年齢集団活動の中で6年生が1年生の清掃やスポーツテストの手助けをしたり、4年生が3年生に向けて新聞を作ったりするなど、ふれ合い・認め合いができた。 ・帰りの会でよいところ見つけをすることにより他者の良さを認め合うことができた。 | A ⓐ C D |
| 3 健やかな 体 | ・体育科では、子どもたちが運動を楽しみながら一人ひとりの技能の向上を目指します。 ・「ぐる縄タイム」や「体力アップ運動」などに取り組み、体力向上を目指します。 ・各学年の特別活動の時間に食に関する指導を行い、食の大切さを学びます。 | ・体育科では、一人ひとりの運動量を増やし繰り返し行うことで技能が向上した。少しずつではあるが、体力・運動能力が向上した。ソフトボール投げは、ほぼすべての学年で横浜市の平均を上回った。 ・「ぐる縄タイム」や「体力アップ運動」などに取り組み、反動的には少なかった。来年度も「ぐる縄タイム」や体力アップ運動について取り組むが、各学年でも工夫してスポーツ大会を開催するににより健やかな体づくりに取り組んでいく。 ・戦時中の食事(すいとん)を給食時間に実際に体験するなど、栄養教諭と連携して食を教材化した学習と有機的に関連させた食の学びを深めることができた。 | A ⓐ C D |
| 4 教育課程・学習 指導 | ・活動内容の系統性を考慮した宿泊体験学習を通して体験的・問題解決的な学習を行います。 ・繰り返しの指導や算数少人数、習熟度別指導を行うことにより、学習の定着を図ります。 ・読解力向上に向け、朝読書・読み聞かせの継続・言葉を大切に学習指導を展開しています。 | ・森の自然体験(4年)・林業体験(5年)・すいとん作り(6年)など学年に合った体験学習を通して問題解決的な学習ができた。 ・繰り返しの学習や少人数指導を行うことにより学習の定着をはかってきた。学習したことを自ら次の学習に生かすことができるよう、問題解決の力が身に付く授業を工夫し、さらに定着を図る。 ・継続的な読書指導・読み聞かせにより読書をする習慣が身につく、読解力がついてきた。 | A B C D |
| 5 児童生徒 指導 | ・学校のきまりや生活目標をもとにして、子どもたちの規範意識を高め、自主的に判断して実践していく子どもを育てます。 ・毎月のミニアンケートや年2回のYPAセグメントを全校児童に実施し、いじめ等の早期発見・予防に努めます。 | ・挨拶については、朝の門当番を職員全員で取り組んだり児童代表委員会に取り組んだりしたが、なかなか定着していない。登下校についても、マナーができていないところがあったので地域や家庭とも協力して引き続き指導をする。 ・毎月のミニアンケートやYPAセグメントを行うことにより児童の実態をより綿密に把握することができ、いじめや問題行動の未然防止、悪化防止ができた。 | A B ⓐ D |
| 6 特別支援 教育 | ・特別支援委員会を定期的に行い、全職員で情報を共有し、校内支援体制をとって支援を行います。 ・特別支援教室での個別授業、チームティーチング、アシスタントティーチャーによる支援などニーズに応じた支援を行います。 | ・今年度も講師を招き全職員で学習障害・自閉症などの研修を実施し、児童の特性のとりえ方や具体的な指導法について理解を深めた。来年度も実践的指導力向上を目指す。 ・支援計画を作成し、特別支援教室での個別授業、チームティーチング、アシスタントティーチャーによる支援を行った。 | A ⓐ C D |
| 人材育成 組織運営 | ・経験年数の少ない教員による自主的な指導力向上研修(メンター研修)を設定し、若い人材の資質能力の向上を図っています。 ・キャリアステージに応じて必要とされる資質・能力を高めるための研修をOJTにより実施します。 | ・10年経験者研修の該当教員が中心となって各教科の授業研究会などをコーディネートし、若手教員自ら授業力や指導力の向上に取り組んだ。また、不祥事防止研修の企画・運営も行った。 ・研修担当を設け、ニーズに応じた計画的に職員研修を設定し、理科実験研修、IT研修、エビメン研修などを行った。 | A ⓐ C D |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | ・合同授業研を2回行ったことで、学びの連続性の確認や思いが共有できた。 ・合同保健委員会が姿勢に関する発表と簡単な運動を行い、姿勢を意識して学習に取り組むことができた。引き続き、体力アップについて考えていきたい。 ・児童生徒指導においては、小中の専任やスクールカウンセラーが密に連絡を取り合い、情報を共有し、一緒に家庭訪問するなど、連携を図ることができ、指導に生かされた。今後も継続させて、連携を深めていく。 ・挨拶については、中学校区全体で地域・保護者・学校が連携し、推進していく。 |
|-------------------------------------|---|

| | |
|---------------|---|
| 学校関係者 評価結果 | ・児童の挨拶がだんだん良くなってきた。地域も挨拶に積極的関わっていくことが大切。各家庭でも話題になるように心がけていく必要がある。 ・交通安全について指導する時に1年生と6年生では物の見方が違うので指導の仕方も年齢に応じて行うとよい。 ・アンケートの回収率(75%)が悪いのは項目が多く分かりづらから。児童数ではなく、家庭数で書いてもらう。答えやすい項目に変え、情報提供を工夫する、他校のアンケートと比べるとよい。 |
|---------------|---|

| | |
|-----------------------|---|
| 評価結果に 対する 学校の見解 | ・異年齢集団活動でのふれあい・認め合いについて、保護者に周知するまでには至らなかった。ので、学年だよりやホームページで知らせしていく。 ・学校評価の項目について工夫していく。また、児童・保護者自身も振り返りを行うことで、児童・保護者・教職員が連携して、よりよい学校づくりを推進していくようにする。 |
|-----------------------|---|

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | ・人権教育でいじめについて全校で取り組んだが、まだ、自分と同じように相手を尊重する心や態度が育まれていない児童がいるので、道徳教育を充実させていく必要がある。 ・重点研究により、自分の意見を言うことはできてきたが、考えを深めたり折り合いをつけたり問題解決をしたりするところまでは至らなかったの引き続き表現力を育成していく。 ・開かれた学校については、いい評価をいただいた。小中交流については、教師間の交流も増えてきたが、より充実させ円滑な接続を図っていく。 |
|----------------------|--|

| 共通取組 重点取組 | 平成27年度 | | |
|--------------------|--|---|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ・授業の中に言語活動を必ず位置づけ、自分の考えを表現、交流できる授業を行い、市学習調査の標準化得点が2ポイント向上しています。 ・解決の見通しをもって学習に取り組めるように、めあてや目標を知る。重要なことや自分の考えを整理する。考えを友達と伝え合い、めあてにそっているか、目標に達したか、ということ確かめるという学習を多く設定していきます。 ・繰り返しの指導や算数少人数・習熟度別指導を行うことにより、学習の定着を図ります。 | ・各教科の中で、自分の考えを表現したり相手の話を聞いて考えをまとめたりする学習ができた。重点研究では、学級会を通して互いの思いや考えを認め合い生かしながら合意形成をしていく表現力の育成に努めた。 ・授業の始めには課題を提示し、授業の終わりにまとめを行い、分かりやすい学習展開に努めた。 | A B C D |
| 2 豊かな 心 | ・オープンスクールの時に道徳の授業を公開し、懇談会で道徳教育について共通理解を図ります。 ・なかよしタイムなどで「異年齢集団活動」を自主的、意欲的に行うことができるようになります。 ・研修会の実施を通して、人権感覚を養い高めま | ・道徳授業の公開はあったが、懇談会での共通理解を深めるまでには至らなかった。全職員で道徳教育の研修を行い懇談会での話題づくりを徹底し実行する。 ・なかよしタイムや異年齢集団活動の中で6年生が1年生の清掃やスポーツテストの手助けをしたり、4年生が3年生に向けて新聞を作ったりするなど、ふれ合い・認め合いができた。 ・帰りの会でよいところ見つけをすることにより他者の良さを認め合うことができた。 | A B C D |
| 3 健やかな 体 | ・体育科では、一人ひとりの運動量を十分に確保し、体力の向上を目指します。 ・「ぐる縄タイム」や「学年スポーツ大会」などに取り組み、体力向上を目指します。 | ・体育科では、一人ひとりの運動量を増やし繰り返し行うことで技能が向上した。少しずつではあるが、体力・運動能力が向上した。ソフトボール投げは、ほぼすべての学年で横浜市の平均を上回った。 ・「ぐる縄タイム」や「学年スポーツ大会」などに取り組み、反動的には少なかった。来年度も「ぐる縄タイム」や体力アップ運動について取り組むが、各学年でも工夫してスポーツ大会を開催するににより健やかな体づくりに取り組んでいく。 ・戦時中の食事(すいとん)を給食時間に実際に体験するなど、栄養教諭と連携して食を教材化した学習と有機的に関連させた食の学びを深めることができた。 | A B C D |
| 4 教育課程・学習 指導 | ・活動内容の系統性を考慮した体験活動を通して体験的・問題解決的な学習を行います。 ・読解力向上に向け、朝読書・読み聞かせの継続・言葉を大切に学習指導を展開しています。 ・学校司書の配置により、学校図書館教育の充実と活性化を図ります。 | ・森の自然体験(4年)・林業体験(5年)・すいとん作り(6年)など学年に合った体験学習を通して問題解決的な学習ができた。 ・繰り返しの学習や少人数指導を行うことにより学習の定着をはかってきた。学習したことを自ら次の学習に生かすことができるよう、問題解決の力が身に付く授業を工夫し、さらに定着を図る。 ・継続的な読書指導・読み聞かせにより読書をする習慣が身につく、読解力がついてきた。 | A B C D |
| 5 児童生徒 指導 | ・学校のきまりや生活目標をもとにして、子どもたちの規範意識を高め、自主的に判断して実践していく子どもを育てます。また、年間生活目標「あいさつをしよう」を設け、年間を通じて場に応じた挨拶が出来る子どもを育てます。 ・毎月のミニアンケートや年2回のYPAセグメントを全校児童に実施し、いじめ等の早期発見・予防に努めます。 | ・挨拶については、朝の門当番を職員全員で取り組んだり児童代表委員会に取り組んだりしたが、なかなか定着していない。登下校についても、マナーができていないところがあったので地域や家庭とも協力して引き続き指導をする。 ・毎月のミニアンケートやYPAセグメントを行うことにより児童の実態をより綿密に把握することができ、いじめや問題行動の未然防止、悪化防止ができた。 | A B C D |
| 6 特別支援 教育 | ・特別支援委員会が支援体制を検討し全職員情報共有の下、チーム支援を行います。 ・特別支援教室での個別授業、チームティーチング、アシスタントティーチャーによる支援などニーズに応じた支援を行います。 | ・今年度も講師を招き全職員で学習障害・自閉症などの研修を実施し、児童の特性のとりえ方や具体的な指導法について理解を深めた。来年度も実践的指導力向上を目指す。 ・支援計画を作成し、特別支援教室での個別授業、チームティーチング、アシスタントティーチャーによる支援を行った。 | A B C D |
| 人材育成 組織運営 | ・経験年数の少ない教員による自主的な指導力向上研修(メンター研修)を全職員により活性化し、若い人材の資質能力の向上を図っています。 ・キャリアステージに応じて必要とされる資質・能力を高めるための研修をOJTにより実施します。 | ・10年経験者研修の該当教員が中心となって各教科の授業研究会などをコーディネートし、若手教員自ら授業力や指導力の向上に取り組んだ。また、不祥事防止研修の企画・運営も行った。 ・研修担当を設け、ニーズに応じた計画的に職員研修を設定し、理科実験研修、IT研修、エビメン研修などを行った。 | A B C D |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | ・合同授業研を2回行ったことで、学びの連続性の確認や思いが共有できた。 ・合同保健委員会が姿勢に関する発表と簡単な運動を行い、姿勢を意識して学習に取り組むことができた。引き続き、体力アップについて考えていきたい。 ・児童生徒指導においては、小中の専任やスクールカウンセラーが密に連絡を取り合い、情報を共有し、一緒に家庭訪問するなど、連携を図ることができ、指導に生かされた。今後も継続させて、連携を深めていく。 ・挨拶については、中学校区全体で地域・保護者・学校が連携し、推進していく。 |
|-------------------------------------|---|

| | |
|---------------|---|
| 学校関係者 評価結果 | ・児童の挨拶がだんだん良くなってきた。地域も挨拶に積極的関わっていくことが大切。各家庭でも話題になるように心がけていく必要がある。 ・交通安全について指導する時に1年生と6年生では物の見方が違うので指導の仕方も年齢に応じて行うとよい。 ・アンケートの回収率(75%)が悪いのは項目が多く分かりづらから。児童数ではなく、家庭数で書いてもらう。答えやすい項目に変え、情報提供を工夫する、他校のアンケートと比べるとよい。 |
|---------------|---|

| | |
|-----------------------|---|
| 評価結果に 対する 学校の見解 | ・異年齢集団活動でのふれあい・認め合いについて、保護者に周知するまでには至らなかった。ので、学年だよりやホームページで知らせしていく。 ・学校評価の項目について工夫していく。また、児童・保護者自身も振り返りを行うことで、児童・保護者・教職員が連携して、よりよい学校づくりを推進していくようにする。 |
|-----------------------|---|

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | ・人権教育でいじめについて全校で取り組んだが、まだ、自分と同じように相手を尊重する心や態度が育まれていない児童がいるので、道徳教育を充実させていく必要がある。 ・重点研究により、自分の意見を言うことはできてきたが、考えを深めたり折り合いをつけたり問題解決をしたりするところまでは至らなかったの引き続き表現力を育成していく。 ・開かれた学校については、いい評価をいただいた。小中交流については、教師間の交流も増えてきたが、より充実させ円滑な接続を図っていく。 |
|----------------------|--|